

ろくおん通信

発行日：1991. 4. 15

NO. 33 号

発行者：盲人情報文化センター録音製作係

3月「音訳研修の会」の報告

録音製作係 清水賢造

3月29日（金）の10時から12時にかけて行われた「音訳研修の会」には府下から52名が参加。漢字の説明について盲人情報文化センター録音製作係の清水がレポートした後、ICCBの金曜チームのメンバーが例題の文章を読み、参加者は例文を見ずに耳だけで聞いて考えていく形で進められた。ここには、そのときのレポートに少し加筆して掲載しました。詳しい報告や当日の資料はICCBの録音製作の校正ファイルのある場所に「音訳研修の会」としてファイルしていますので、ご自由にご覧ください。

漢字の説明について

漢字をそのまま読んだのでは正しく伝わらないときの処理を考える場合、次の3点が重要なポイントです。

1. どんなときに

a. 同音異義語

- ・ 同じ音が複数出てきたとき
- ・ そのままでは他の熟語を連想するとき、
- ・ どの字かわからず理解しにくい時
（特に漢字一字の時が多い）

例 正 性 生 征 聖 誠

b. 漢字を説明することで理解を助けるとき。

- ・ 音だけでは意味が分からない。
- ・ 著者の造語などで分かりにくい。

私たちは、意味を正確に知らない熟語や読

み方の分からない熟語があっても使われている漢字である程度その意味を推察しながら読んでいくことがあります。その点、視覚障害者の場合は音訳者が適切に補わなければ理解の度合が違ってきます。場合によっては全く反対に理解してしまうことすら出てくるでしょう。

漢字をよく知っていても、よく知っている熟語でも音だけで聞いた場合何のことだか分からないことがあります。そんな場合に音訳者が上手に漢字の説明をいれることが求められると思います。言葉が難しいからとか、漢字が難しそうだからと説明をするのではありません。混同しないようにしましょう。

c. 漢字そのものが問題になっているとき。

文章に「○○と漢字で表記され・・・」とあるときなどは字の説明が必要です。

(2)

d. その他

利用者から「ある劇団の名前がどんな漢字なのか説明を待っていたが最後までなく残念だった」との声がありましたが、場合によっては漢字を説明することでイメージがさらに深まることもあります。

2. どんな説明を

a. 説明する際、訓読みやよく使われている熟語などで説明することで漢字を知らなくても理解ができるように注意をする。

例 今秋

例1 シュウはキ'ンに火

例2 シュウはアキ

例2では秋という漢字を知らなくても通じるが、例1では漢字を知っている人でないと秋であることが伝わらない。ときどきこの混同が見られます。

b. 音訳者が漢字の説明をしていることが分かるように

c. 本来の意味からかけ離れた字の説明は避ける。

例 親友→○シンは親しい ×シンは親(おや)
国対政治→○対は対策の対
×対は対立の対

d. その字が正しく連想できる熟語を使う。
正 正は正確の正(正は性格の性?)
* どちらか断定しにくい説明は避ける。

e. 余分な言葉を挿入するのでできるだけ本文の内容を混乱させないよう気をつける。

f. 簡潔に入れる

3. どのように入れるか

a. トーンを下げるなど説明部分が立たないよう気をつける。

b. 必要な間をとる。

c. スピードはやや早めに。

以上

校正について・・・その5

「聞いて分かる読みになっているか」

校正は原本と照合し、原本通りに読んでいるかをチェックするのが基本ですが、音訳の場合、原本の通りに音訳しているだけでは利用者に正しく伝わらないことが多々あります。これが「聞いて分かる読みになっているか」のテーマです。しかし、この問題はなかなか理解しにくい問題でもあります。何故なら音訳者も校正者も原本を見て内容を理解してしまい、音だけで聞いた場合どうなのかといったことがなかなか分かりにくくなるからです。

たとえば、大中小のある目次(活字の大きさや、段差、ページ付けなどで区別しているもの)をそのまま読んだのではなかなかかわかないものです。目次の大小関係が分かるように読まれているかどうかをチェックするには原本を見る前に音だけ聞いてみるとよいでしょう。

目次だけでなく、漢字の場合もそのまま読んだだけでは正しく伝わらない事があります。例えば、「今秋(コンシュウ)に完成」と読んだだけでは、「今週」の方が一般的なもので、「今週

に完成」と間違って伝わることになるでしょう。この場合、アクセントはどちらも同じですが、たとえアクセントが違っていても、アクセントの区別だけで正しく伝わるとは限りません。このように晴眼者には正しく伝わる事が、音だけで聞いている人にはさまざまに伝わりとしたり正しく読んだことにはならないでしょう。この場合、今秋の秋(シュウ)はアキであることを知らせる必要があります。もちろん、前後の文章から容易に推察できる時にまで説明する必要はありません。

漢字を見ている人には内容がたやすく伝わるのに、音だけで聞いている人には何のことだか分からない、そんな時には音訳者による適切な説明が必要です。どんなときにどのような説明を入れるのかは3月29日の勉強会のレポートを今号に掲載していますので参照してください。

さらに()などもさまざまなケースがあり、単に声を落として読んだだけでは正しく伝わらないことがしばしばあります。

()の使われ方はさまざまありますので、処理を変えなければならないこともあるでしょう。注意する点としては、

1. ()の前後の文章が()の内容と混乱なくつながるか。
2. ()の内容がただしく伝わるか。

()の問題については、様々ありますので別の機会に取りあげてみたいと思います。

「聞いて分かる読みになっているか」のチェックをしようと思えば校正者は少なくとも原本と照合する前にテープだけで一度聞いてみるとよいでしょう。分かりにくかったところや違う意味に理解していたところなどは問題になるところと言えます。音訳者も校正者も音だけで聞いている立場に常に頭を切り替える訓練も必要ではないかと思います。その為にも、音だけで一度聞いてみることは問題を自分で発見できる機会になるとと思います。

(清水賢造)

「英語グループ便り」・・・その1。

原本中の外国語、おもに英語の人名、書名、出版社名、短いセンテンスなどの音声訳について、担当者によってバラツキが多いことが以前から指摘されていて、何らかの対応が必要だという声があります。系統立ったマニュアルの作成まではまだ時間がかかりそうですが、とりあえず気になる所から、少しずつ問題点をあげていくことにします。

「略語について」

略語には複数の語を略したものがあります。原本では何が該当するか、慎重に検討して下さい。以下、簡単な例をあげます。

- ann. 1. Annals (名): 年報、紀要、年史。
 2. Annual (名): 年鑑、年報。(形): 年々の、年刊の。
 3. Annuity (名): 年金。
- ed. 1. Edited (形): 編集された。
 2. Edition (名): 編集。
 3. Editor (名): 編集者。
- Eng. 1. England (名): イングランド、俗にイギリス(本国)。
 2. English (名): 英語、the Englishで英国人。

(4)

(形): イングランド(人)の、俗にイギリス(人)の、英語の。

Ind. 1. India (名): インド。

2. Indian (名): インド人、アメリカ・インディアン。

(形): インド人の、アメリカ・インディアン。

3. Indiana (名): インディアナ州(米国中部の州)

4. Indies (名): インド、インドシナ、東インド諸島の総称的旧名。

ind. 1. independent 2. index 3. indicated 4. indicative 5. indirect 6. industrial

(訳は省略)

新英和中辞典・New Collegiate Eng.-Jap. Dictionary(研究社)より

以上、略語についていささか面倒なことを書きましたが、現在、ICCBの7階には、次のような辞書があります。略語に限らず、ごく一般的な日本語について思い込みの誤りがあるように、英語についても、スペリングにひきずられた思い込みがないか、辞書で確かめる習慣をつけていただきたいと思います。

アポロ英和辞典、新英和中辞典、英和大辞典(以上、研究社)、新クラウン英和辞典(三省堂)、英語類語辞典(開拓社)、数学英和・和英辞典(共立出版)、ランダムハウス英和大辞典・全4巻(小学館)、The American College Dic.(紀伊國屋書店)、The American Heritage Dic. of the Eng. Language (Houghton Mifflin Co.)

(古谷穹子)

リクエスト依頼図書

下記の図書は利用者から原本を用意されて製作依頼を受けていますが、音訳してもよいと思われるグループや個人の方がありましたら、清水までご連絡ください。はじめてのグループも歓迎します。

(連絡先:03-441-0015盲人情報文化センター内線72、清水)

『折伏教典』／創価学会教学部編

『Lisp/MS-DOS版エキスパートシステム構築法』／高橋邦芳著

『季刊 障害者問題研究』／全国障害者問題研究会

『天文台からみた世界』／古在由秀著

『臓腑経絡学ノート』／北辰会出版編

『ワインと料理の相性診断』／渡辺政澄他著

『カラバゴス諸島「進化論」のふるさと』／伊藤秀三著

『歌集 光の海へ』／横山三樹著

『桃子歳時記』／辻桃子著

『親と教師が蘇る時』／伊藤友宣著

『スペイン語会話110番日常生活編』／寿 里順平著

『やさしく話すスペイン語』／大林文彦著

音訳を引き受けて頂いた図書とグループ名

『昆虫の行動』／高橋正三著

『聖書のあけぼの』／関谷定夫著

『スペイン語のトレーニング』／野々山真輝帆著

グループ名

グループ「ひばり」

グループ「ベテスタ」

ICCB音訳グループ